

みんなの ひろば



※上のイラストは、題字と同じ内容を指文字と手話で表したものです。

主な内容

- 共生社会フォーラムin岩手……………2
- 楽しんでます!!卓球バレー……………3
(生活介護事業所「ふたば」、岩手県障がい者スポーツ協会)
- たばしね学園50周年記念祝賀会の開催(たばしね学園) ……4
- 中山の園創立40周年記念式典(中山の園) ……………5
- 共に働く仲間(みたけの園、松風園、ワークなかやま) ……6
- 永年勤続者事業顕著者表彰……………7
実践報告・実務研究論文入賞!!(好地荘)
- 「オモイをカタチに基金」活用事業がスタート!……………8
【花巻銀河珈琲】商標登録(松風園)
「ふるさと発見!大交流会inIwate2019」で活躍!(人材育成室)
障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会～しる・つながる・ひろげる～
(岩手県障がい者芸術活動支援センターかだあと)

第133号

令和2年3月16日
発行

昨年11月に開催された、第27回岩手県障がい者文化芸術祭において、当事業団で入賞した方のうち、工芸部門で佳作、努力賞を受賞した作品をご紹介します。

上段：(工芸部門) 佳作 作品名 カラー
岩館 楓真さん
(地域生活支援センター「歩夢」)

中段：(工芸部門) 努力賞 作品名 刺し子のれん
川村 ムツさん
(地域生活支援センター「ひこうせん」)

下段：(工芸部門) 努力賞 作品名 12ヵ月
佐々木敬香さん
(地域生活支援センター「歩夢」)



入賞おめでとうございます!
～第27回岩手県障がい者文化芸術祭～

楽しんでいきます☆卓球バレー

生活介護事業所「ふたば」

ふたばが「卓球バレー」と出会ったのは平成28年4月でした。きっかけは中山の園に岩手県卓球バレー協会の三浦氏と日本卓球バレー連盟普及委員長の掘川氏をお招きし、卓球バレー講習会を行ったことでした。

卓球バレーは「障がいの有無、年齢、性別を問わずに楽しめる競技」であり、何より、12人一度に楽しむことができます。大勢で行うこともあり、大変盛り上がるこの競技に利用者の皆さんはもちろん、職員もその魅力に引き付けられました。

同年10月に行われた、希望郷いわてオープン卓球バレー全国交流会にも参加させていただき、貴重な経験をする事ができました。

その後の取り組みとしては、年に3～4回ほど盛岡近郊や久慈市、北上市での交流大会等に参加させていただいています。ふたば利用者の皆さんも交流大会等楽しみにしています。

平成30年4月には岩手県障がい者スポーツ協会主催の「卓球バレー指導員講習会」と中山の園各施設と近隣の事業所の皆さんとの交流会を合同で開催しました。



希望郷いわてオープン大会卓球バレー全国交流会



ここが始まり!卓球バレー講習会

また、今年度は、第3回となる「中山の園所長杯卓球バレー大会」を開催し、近隣の事業所の皆さんと交流しています。中山地区卓球バレー交流会も2回開催し、地域の皆さんとの交流を深めています。

今後も、各大会への参加を継続し、地域の皆さんにご協力いただきながら、中山の園所長杯卓球バレー大会、中山地区卓球バレー交流会を通じ、皆さんが楽しむことができるように取り組んで参りたいと思います。

6人でイスに座り、ネットを挟みゴロで打ち合うのですが、これが実に面白く、しかも、障がい種別を問わず、重度・高齢障がい者にも楽しむことのできる可能性を秘めていました。

この後、早速、普及活動を展開しましたが、卓球バレーは、卓球とバレーボールを組み合わせた種目というイメージを抱かせ、その魅力を伝えるには苦労しました。

そのような普及活動の中で、どうしても訪問したい施設がありました。それが中山の園です。近年は、利用者の高齢化が進み、スポーツを実施するのが困難であることは承知していました。まさに、卓球バレーの真の実力が試される時でした。

難航すると思われた施設訪問の交渉も、当時の生活介護事業所ふたば副所長・白畑由貴子さんのご配慮によりスムーズに実現しました。実際に卓球バレーを体験した利用者には十分に楽しんでいただけたと思います。この反応は、職員の皆さんにとっても驚きだったようで早速、卓球バレー用具を購入し、日中活動のプログラムに取り入れていただきました。

その後、卓球バレーは平成28年の希望郷いわて大会のオープン競技に採用され、何とこの大会にふたばチームが出場したので、ふたばチームは、その後も様々な卓球バレー大会に出場しながら、現在は、地域での卓球バレー交流事業にも積極的に取り組んでいます。

〔岩手県障がい者スポーツ協会 事務局長 三浦拓朗〕



岩手県作業療法士学会において卓球バレーの紹介をされる三浦事務局長

本県の卓球バレー普及の歴史は浅く、平成24年に初導入、翌年から本格的な普及活動がスタートしました。初めて卓球バレーを見た時の衝撃は今でも覚えています。卓球台の周りに6人対

「ふたば」の成長



日本舞踊花柳流 花柳光明子(本名 内館明子)氏「長唄 松の緑」

共生社会フォーラム in 岩手



NPO法人のびっこ寮育センター「のびっこ太鼓」



社会福祉法人光林会「ルンビニー百姓踊り」

6月末頃話が舞い込んだこのフォーラムは、2016年津久井やまゆり園(障害者支援施設)殺傷事件の再発防止のため、命の重さと福祉の理念を多くの国民に浸透させるため、厚生労働省主催、公益財団法人糸賀一雄記念財団が受託、北海道・東北ブロックとして、開催の趣旨に賛同し、当法人が地元事務局をお引受けしたものです。

岩手での開催に向け、近隣の他法人の皆様にも声をかけ、地元運営委員会を開催(10月)。周知や参加にご協力いただき、開催に漕ぎつけました。

オープニングの表現活動では、師範でもある母の指導と見守りのもと健気に舞う「花柳光明子氏の日本舞踊」、元氣いっぱい笑顔あふれる「のびっこ太鼓」、そして、昔を思い出し、懐かしんだ「ルンビニー百姓踊り」。それぞれ一

生懸命な姿に感動を覚えました。つづいて、「いのちには意味がある」と題した奥田氏の基調講演と糸賀一雄氏の理念を伝えるNHKスベシヤルの制作秘話。語り部養成研修を受講した方々は、2日間に渡るカリキュラムに真剣に向き合い、二元論の考えではなく、「どちらともいえない」という答えを考えることに「もやもや」を感じながらも、共生社会の核心に迫る研修が進められていることを実感しました。

最後に、開催にあたり、難しい内容のファシリテーターをお引き受けいただいたみなさま、当日の裏方にご協力いただいた盛岡市社会福祉事業団の皆様ほか関係する方々に心より感謝申し上げます。

さて、来年はどこでやるのかな…。



「もやもや」を言語化しようと、自分の内面と真剣に対話した語り部養成研修



「歩夢」のみなさんに、素敵な看板を制作していただきました。

たばしね学園 50周年記念祝賀会の開催

たばしね学園 園長 白畑 勇

たばしね学園50周年祝賀会を、令和元年9月8日（日）に前沢ふれあいセンターで開催しました。当園では、隔年で「杉の会」という利用者・保護者・職員とのOB会を継続していることから、「杉の会」にあわせた開催としました。



前沢町生母(当時)にあった旧たばしね学園

当園が一部事務組合立で前沢町生母地区に創設されたのは、昭和44年4月です。平成6年12月、全面改築に伴い現在地に移転しました。その後、少子化、不登校、いじめ、児童虐待、子どもの貧困などの社会問題が顕在化し、子どもを取り巻く環境が大きく変わりました。当園では、自閉症や発達障害と診断される児童の入所が増えるとともに、愛着の課題や行動上の問題を抱えた児童など、支援ニーズが高い児童が増えています。



杉の会(OB会)会長よりご祝辞をいただきました。

する前の施設を利用していただいた先輩からの当時の苦労話や、参加した全員からの元気な近況報告などがあり、過去のスライド上映では、懐かしさで目頭が熱くなっていました。フィナーレは新調したての半纏姿が凛々しい「よさこいソーラン」。新旧「たばしねっ子」の未来に向けての競演でした。



頑張っている姿がみられて、嬉しさいっぱい会場になりました。



過去のスライド上映。「こんな頃もあったね。懐かしいなあ。」

中山の園 創立40周年記念式典

りんどう 施設長 上山保子

中山の園が開設されて40年、地域の皆様、関係機関をはじめ多くの皆様のご理解とご協力に支えられてきました。

昭和54年4月に重度棟1棟が開設、順次整備が進



昭和54年 建設中の中山の園

み、昭和58年には重度棟4棟・中軽度棟2棟、定員300名の施設として、以降多くの利用者を受け入れてきました。

社会福祉を取り巻く環境が変化する中、時代の流れに対応した施設機能の在り方を求め、歩んできたこれまでを利用者やご家族、地域の方々と一緒に、運営及び事業の推進等に貢献いただいた方々へ感謝の意を表す機会として、40周年記念式典を挙行了しました。

設置者である岩手県社会福祉事業団佐々木理事長の挨拶のあと、理事長感謝状を20年以上貢献いただいた一戸町消防団第九分団様に、また、所長感謝状を10年以上貢献いただいた一戸町立奥中山中学校様、岩手県立一戸高等学校様、株式会社アキヤマ様、奥中山高



記念式典にて、佐々木理事長、伊藤所長より感謝状を贈呈しました。地域の皆様に支えられています

施設として、入所機能の充実を図る一方で、平成18年10月には児童デイサービス事業（現放課後等デイサービス事業）を、ついで平成19年4月には相談支援事業所「たばしね」を開所し、在宅支援や相談機能の充実を図ってきました。

時代は「令和」になり、国から障害児入所施設の在り方が示されようとしています。発達支援や自立支援機能の充実に加え、社会的養護を必要とする児童への対応と地域支援の充実を図るため、職員の確保と育成、定着を図りながら専門性向上に努めるとともに、共生社会の実現に貢献していきたいと思っています。

原乳業株式会社様、ダイコク化成株式会社様、釜石善八様、山本範子様の2個人5団体へ贈呈し、来場者の盛大な拍手により感謝の意を伝えるとともに、今後とも変わらぬご支援をお願いしたところです。

これからも利用者の安全・安心なサービスの提供を心がけ、地域から信頼される施設として努力を続けていきたいと思っています。

共に働く仲間

就労を目指して障害福祉サービスを利用していた方が、現在は共に働く仲間として法人内各施設、事業所で活躍しています。
今回は、3つの施設・事業所をピックアップし、みなさんの活躍をご紹介します。

みたけの園 福島ミドリさん

仕事を探していたのもあり、みたけの仕事はいいチャンスだと思って始めました。洗濯物に名前のない服があると困ることもあるけど、楽しく仕事をしています。他の職員の方々とも仲良く、笑顔と挨拶を大事に、これからも仕事を続けたいです。今よりも出来る事を増やしていくのが目標です。



忙しくても笑顔を忘れず、はい、チーズ!!

松風園 石川 和枝さん

前の会社を辞めて、就労移行に来たときは最初不安でした。花火やところてんの作業をやっていました。が、職員が考えてくれて「掃除の仕事をやってみないか」と言われました。

松風園に就職して、知っている職員をはじめ、今はたくさんの職員と話が出来ます。休憩や水分補給ができるのもいいです。今の仕事に慣れたから、これからも続けていきたいです。



「園長、机の下を掃いてもいいですか?」「いつもありがとうございます。」

ワークなかやま

池田 昌子さん
畠山 ゆきえさん



丁寧にモップ掛け

清掃作業をやっていて綺麗になることが一番嬉しいと話す池田さん。清掃作業にやりがいを持ち、イキイキと仕事をしているようです。「体調を整え仕事を続けられるよう頑張ります」と笑顔で話してくれました。



きれいにお掃除!

利用者や職員とのコミュニケーションを大切にしている畠山さん。名前を覚えたり、挨拶をしっかりと行えるよう気を付けています。また、「利用者が安心して生活できるよう心がけています」と明るく話してくれました。

みたけの園では2名が労務員として日々働いています。そのうちの一人が、洗濯業務に従事している福島ミドリさんです。以前はホテルで客室清掃のスタッフとして働いていましたが、もっと働きたいの思いから、転職を決断されました。仕事では手順を工夫したり、力仕事を率先して行ったりと毎日真剣に働く一方、プライベートではコンサートに温泉(岩盤浴)、おしゃれを楽しまれています。今年4月で3年目となる福島さん、今後の活躍が期待されています。

(みたけの園 生活支援員 橋本志保)

2年前、松風園の新たな職種「清掃労務員」として雇用されたのは、就労移行の利用者、石川さんでした。15年勤めた食品製造会社で培った誠実さと、事務室で見聞きしたことを漏らさないところが買われました。
就職してからは、「汚れに応じた掃除」になる事があって手が止まる」という課題を、ジョブコーチの支援を得て改善し、今や安心してお任せしています。朝夕のあいさつの爽やかさは松風園の職員随一! 石川さんの採用で職員の花が増えました。

(松風園 副園長 與羽州子)

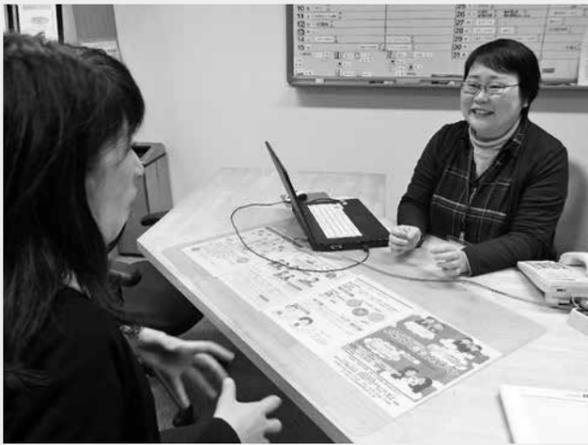
事業顕著者表彰

岩手県立視聴覚障がい者情報センター
齋藤智子 情報支援員

高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長賞を受賞した齋藤情報支援員をご紹介します。

齋藤智子情報支援員は、岩手県立視聴覚障がい者情報センターが開所した平成18年から、聴覚部門の要として活躍している職員です。手話通訳者の養成や派遣、当事者からの相談、大学での講義、字幕(手話)入DVDでのキャスター出演など、その業務内容は多岐にわたります。豊富な専門知識、ユーモアを交えた巧みなコミュニケーション、当事者としての的確な視点から、同僚や利用者からも厚く信頼されています。平成30年からは、全国聴覚障害者情報提供施設協議会の意思疎通支援事業専門委員を務めるなど、活躍の幅をますます広げています。全国の聴覚障がい者のために奔走する齋藤さんを、私たちセンター職員は誇りに思います。同じ法人で働く他の皆さんにも、齋藤さんの活躍を是非知ってほしいと思い、筆をとらせていただきました。

(主任情報支援員 小原淳)



利用者に笑顔で対応する齋藤情報支援員

このたびの受賞はひとえに「聴覚障がいの特性に応じた合理的配慮」があったからこそであり、障がいの有無に関わらず力を十分に発揮できる環境を職場において整備して下さったことで自身の業務の質向上にもつながり、結果としてこのような身に余る評価をいただくこととなりました。上司、同僚、事業団事務局はじめ業務に関わる全ての方々には改めて感謝の念しかありません。今後とも当施設の使命である「聴覚障がい者支援」を一層充実させ、地域社会に対する障がい理解の普及・促進と支援を行う人材の育成を通じて「合理的配慮により誰もが輝ける社会づくり」に向けて、より一層業務に邁進してまいります。

(情報支援員 齋藤智子)

永年勤続者事業顕著者表彰

昨年10月11日、ホテルメトロポリタン盛岡において、永年勤続者事業顕著者表彰式が行われました。勤続25周年を迎えた7名と、高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長賞を受賞された職員に表彰状と記念品が授与されました。今後一層のご活躍をお祈りいたしております。



令和元年度岩手県社会福祉事業団職員表彰式

実践報告・実務研究論文入賞!!

好地荘(花巻市)

全国社会福祉事業団協議会に応募した、好地荘の実践報告・実務研究論文が「優良賞」に選ばれました。好地荘のみなさんおめでとうございます。

「誤嚥予防への取組み～精神障がい者・高齢障がい利用者への安全な食事提供について考える～」

【花巻銀河珈琲】商標登録 松風園(花巻)

花巻温泉郷、宮澤賢治生誕の地、空の玄関口を有する地の利を生かして、花巻のお土産品のブランド化をめざし登録しました。さらに、多くの全国の皆様に拡散希望！！

松風園就労継続支援B型事業 一同

全国に届け
「花巻銀河珈琲」
ブランド!!



※オリジナルパッケージ承ります

お問い合わせ先 松風園 TEL 0198-45-3016 FAX 0198-45-3017

人材育成室より

「ふるさと発見!大交流会 in Iwate2019」で活躍!

令和元年11月23日(土)に岩手産業文化センターアピオで開催された「ふるさと発見!大交流会 in Iwate2019」に参加してきました。学生に向け、地元いわての様々な産業・社会活動を発信し合い、地元企業をもっと知ってもらおうというイベントで、今年度で3回目の参加となりました。

みたけ学園の阿部由比保育士をリーダーに、やさわの園の加藤瑞己生活支援員、つつじの浅水百加生活支援員の若手職員3名が、装飾の作成や学生に向けプレゼンテーションを行いました。始めは緊張気味でスタートしましたが、次第にアピール上手となり、学生の興味を惹きつけていました。装飾は、利用者とともに作り上げた掲示物、利用者や働く職員の様々な写真を貼りつけたものを掲示。当法人の魅力を十分に発信し、活躍してくれました。



3人の魅力で、学生の心を驚がみでした。

障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会 ～しる・つながる・ひろげる～

岩手県障がい者芸術活動支援センターかだあと



講師も交えてのグループワーク、様々な意見を出し合いました。

令和元年10月18日(金)、アイーナにて「障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会～しる・つながる・ひろげる～」を開催しました。県内外で先駆的な取り組みを行う3名の講師(もうひとつの美術館 梶原紀子氏、静山園 酒井成美氏、アートリンクうちのあかり 安藤郁子氏)をお招きしての実践報告とパネルディスカッション。後半は、グループワークを通して、それぞれの「いま(現状や課題)」と「ゆめ(夢や目標)」を共有し、どうやって実現するか、アイデアを出し合いました。互いの悩みを共有し、アイデアを出し合うことで、これからの活動のヒントに繋がりました。

今後かだあとでは県内の支援者ネットワークがひろがる活動を実施していきます。

「オモイをカタチに基金」 活用事業がスタート!

今年度から職員の「失敗を恐れないチャレンジ」を支援する「オモイをカタチに基金」活用事業がスタートしました。

福祉機器展の視察

や、利用者・職員の負担軽減のための介護機器・システム導入等のチャレンジに必要な経費を支援し、利用者の皆様の「オモイ」を「カタチ」につなげるよう、法人一丸で取り組んでいます。



このマッスルスーツが導入できれば腰の負担軽減に!